

国際交流を語る

昨年8月に神栖市が誕生し、今年4月に「神栖市国際交流協会」が設立されました。旧神栖町（設立14年）と旧波崎町（設立10年）の協会の合併により、広域的な国際交流活動が展開することが予測されるなか、今後の協会の果たす役割や事業の展望について市長と新会長に伺いました。

プロフィール

ほ たてかず お しちょう
保立一男 市長



神栖市日川出身 60歳
昨年12月、市長就任 旧神栖町
議会議員5期（議会議長、鹿島郡
町村会議長など歴任）

司会：当協会も新会長が就任して、これからの国際交流についてお話を伺います。市長は以前、姉妹都市を訪問されたと伺っていますが、

市長：1994年の11月にアメリカのカリフォルニア州のユーリカ市を訪問しました。レッドウッドの森やピクトリア調建築が印象的でした。

会長：私はその1年前に市民の代表の一人として、訪問しました。市長のおっしゃるとおり自然が豊かで、とても癒されました。

国際化の進む神栖

司会：当時と現在では市民の国際交流に対する意識が変わりましたか。

会長：いろいろな国の人々を病院、市役所、銀行、スーパーなど、街中のあらゆる場所で見かけますね。

市長：企業にはブラジルや中国から家族ぐるみで、波崎の農家にはタイや中国からも研修生が来ていますね。

神栖市の7月現在の外国人の登録者数は2,813人（32カ国）で、312人は16歳未満です。ブラジル、中国、タイ、フィリピン、韓国の順位となり、市の人口92,823人の約3%で、全国比の2倍となっています。5年前より約400人増です。

外国人労働者と教育の課題

司会：外国人児童の教育問題について市長のお考えは？

市長：教育の現場では日本語の指導員を配慮して1日も早く、授業が理解できるように市としてもバックアップ体制を取っていて、軽野東小学校などでも、外国人児童のために日本語指導教室が設置され、学習環境が整備されています。

会長：当協会では、市民と在住外国人が安心して生活できるように「外国人のための日本語教室」「英会話教室」「中国語教室」などを市内の5カ所で開催しています。外国人の子ども達にもレクリエーションなどで支援できたらと考えています。

司会：海外交流については姉妹都

プロフィール

かじやまさこ かいちょう
梶山正子 会長



水戸市出身（神栖在住35年）
神栖市ボランティア連絡協議会
会長 旧神栖町国際交流協会設立
発起人の一人

市以外に計画はありますか。

市長：市の港湾関係では中国のチンタオや韓国と、波崎地区では中国と友好関係もあるので今後ますます、アジアと交流が広がればと思います。この夏休みは市内の中学校から2名ずつ、計16人が中国の北京・上海の研修旅行を予定しています。

国際交流の原点

会長：学生のような若い世代の交流が盛んになって、私たちも何か協力できれば嬉しいです。

市長：今年10月には4年ぶりに姉妹都市のユーリカ市を親善訪問します。特に文化の面で交流を進めていければいいですね。